

# 「弔い委任における住職の役割

7月29日(木)  
オンライン開催

## —— 問題点の整理とヒアリングシート」

弔い委任において住職は、何をどこまで行えばいいのか？

檀家の悩みを聞いて整理するということ

専門家と住職の役割分担

### ■何をどこまで準備したらいいかわからない

日本弔い委任協会が発足して2年、弔い委任に取り組むお寺もだいぶ増えてきました。

それは元々ほとんどのお寺で、檀家のおひとりさま、子どものいない夫婦などから、自身の弔いについての相談を受けていたり、お寺として気になっている檀家さんがいたり、という状況があったからであると思います。

その一方で、弔い委任に興味はあるけど、具体的にスタートさせるのを躊躇しているというお寺が多いのも現実です。

その理由を聞いてみると、何をどこまで準備したらいいのかわからなくて不安という方が多いようです。

### ■まずは目の前の人から

もちろん万全の準備をして受け入れたいという気持ちもわかりますが、そうしていると取り組むことのできないまま、これからも時間が過ぎていく可能性があります。

もし既に相談を受けている人や、大丈夫かなと気になっている人がいるなら、そちらから始めるという方法もあります。

多くのお寺には既に、ご自身の弔いについての相談をしてきた人や、ご自身の弔いは大丈夫かなと気になっている人がいるはずで

す。もちろん、自坊でできるか不安という方もいるでしょう。ただそれは、どうも弔い委任を難しく考えすぎていることに原因があるように思えます。

弔い委任は、お寺だけで行うのではなく、専門家(司法書士、弔い委任専門の法人など)といっしょに行うものです。法的なことなど専門的なことは専門家が行うことですから、お寺はその概要だけ把握していれば充分です。仕組みそのものはゼロからつくるわけではなく、既にある仕組みを専門家が利用するだけです。

### ■お寺の役割は本人の置かれている状況の把握

ただお寺にも重要な役割はあります。

それは、相談に来る檀家さんがどんな状況に置かれているかを把握し、その悩みを整理してあげることです。

自身の弔いに不安を抱える人は多いですが、何が問題なのかをはっきり自覚している人はほとんどいません。「私の葬儀はどうなるの?」といった素朴な不安がある程度です。葬儀と行ってもお経だけで無く、葬儀社が行う部分、施行・搬送・火葬などがありますし、納骨も誰かがやらなくてはなりません。お金を誰が預かり誰が支払うのかという問題、行政の手続きを誰が行うのかということもあります。

それを整理するため、まず必要なのは、檀家さんがどんな状況に置かれているかを把握することです。

そしてそれを把握することができたら、「次は専門家を呼ぶので、いっしょに考えましょう」という段階に移っていくのです。

ここまでできれば、後は専門家が粛々と作業を進めていくということです。

### ■状況を聞くノウハウとヒアリングシートの使い方

今回のセミナーでは、お寺が相談を受ける際に、檀家さんの置かれている状況を聞き取り、問題点を整理する方法についての講義を行います。ノウハウだけでなく、具体的な実例(ケーススタディ)もお話しする予定です。またその際に使うことのできるヒアリングシートを配布します。シートについては使い方の講義も行います。

自身の弔いについての相談を既に受けているお寺、弔いについての不安を抱える檀家が気になっているお寺はぜひ受講していただければと思います。

また自坊では弔い委任に取り組むのは難しいと考えている方にもぜひ受講していただきたいと思